

「腹腔鏡下ドナー腎採取術における単孔式・細径鉗子使用手術の有用性の検討」への御協力のお願い

東京歯科大学市川総合病院では腎移植のドナー腎採取術のより良い手術方法を検討するため患者さんにご協力をいただき、「腹腔鏡下ドナー腎採取術における単孔式・細径鉗子使用手術の有用性の検討」の研究を行っております。ご理解・ご協力のほどお願い致します。

研究の目的と意義

現在日本において移植腎を採取するための手術は95%以上腹腔鏡を用いて行われています。以前の開腹手術に比べて腹腔鏡手術（体に5～10mmの孔を3,4か所開け、さらに腎臓を摘出するための10cm前後の創をつくります）はかなり負担の少ない手術となっています。一方ドナー腎採取は健康な体にメスをいれる手術でありより負担が少なくより傷が小さく目立たない手術にすべく当院では従来の腹腔鏡手術を進化させ単一の傷で行う^{たんこうしき}単孔式腹腔鏡手術や従来の腹腔鏡手術で用いるものよりもさらに細い^{かんし}鉗子「手術用の道具」を用いた腹腔鏡手術を行っています。過去の報告では手術の安全性や移植される腎機能が保たれることはもちろん、痛みの軽減や入院期間の短縮、患者様の満足度上昇などのメリットが言われていますが行っている施設はそれほど多くありません。そこで当院で行っているより創の小さい腹腔鏡手術が従来の腹腔鏡手術と比較してどのようなメリット・デメリットがあるのか成績を比較し手術の有用性を検討します。

研究の対象となる方

当院泌尿器科において2014年1月1日から2022年5月31日までに腎移植のドナー手術を受けられた方が対象となります。研究の対象となることについてご了承いただけない場合は対象とはいたしませんので、お申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究の方法について

以前に当院で腹腔鏡下ドナー腎採取術を受けられた方について、手術に関連したカルテ上の情報を集計します。具体的には年齢、手術時間、出血量、痛み止めの使用量、入院期間、合併症の有無、移植された腎機能などについてです。

カルテ上の情報を集計するため患者さんへの身体的な負担は生じません。

個人情報の取り扱いについて

患者さんのデータは対象者が特定できる情報を削除して取り扱いします。この研究の成果を発表する場合にも研究対象者が特定できる情報を使用することはありません。この研究において得られた研究対象者の情報はこの研究のために使用し、研究終了後は5年間保存した後、誰のものかわか

らない状態で情報を破棄します。

あなたをご希望される場合は、他の研究対象者の個人情報の保護に支障がない範囲で研究計画書を開示いたします。

利益相反について

研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

倫理審査委員会の承認

この研究は東京歯科大学市川総合病院倫理審査委員会の審査承認および病院長の許可を得て実施しております。

研究の問い合わせ先

本研究の当院の実施責任者の氏名ならびに連絡先は以下の通りです。

当院責任者：東京歯科大学市川総合病院泌尿器科 講師 萩生田 純

住所：〒272-8513 千葉県市川市菅野 5-11-13

電話：047-322-0151